

公益社団法人日本技術士会近畿本部 建設部会・防災研究会 合同見学会のご案内
宿泊見学会 「南海トラフ巨大地震に備えた津波防災を考えよう」
2013年11月2日(土)～3日(日)

■見学内容

1日目は、和歌山県串本町の橋杭岩を見学して宝永地震の痕跡を確認するとともに、串本町の防災施設の見学をもとに串本町の津波防災の現状と課題をヒアリングして今後の対応のあり方について検討を行います。2日目は、勝浦町で2011年台風12号災害の復旧状況を確認した後、三重県大紀町の津波避難施設「錦タワー」を視察する予定です。

■集合時間、場所

集合時間：11月2日(土) 午前8時15分

集合場所：大阪梅田 大和ハウス本社前 (下記の位置図参照)

■宿泊先：国民宿舎あらふねリゾート 和歌山県東牟婁郡串本町田原 2518

TEL0735-74-0124 FAX0735-74-0125

■参加費：15,000円(見学会当日に徴収)

※1泊2食料金、交流会費用、旅行保険料を含みます。

※昼食費、施設入館料は別途個人でお支払い願います。

※申込み期限以降のキャンセルはキャンセル料金が発生します。

■募集人員：20名(先着順)

■申込み期限：10月25日(金)

■申込み先：公益社団法人 日本技術士会近畿本部

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-9-15

(TEL)06-6444-3722、(FAX)06-6444-3740

(E-mail)pe@ipej-knk.jp



■見学行程

【1日目】11月2日（土）

- 8:30 大阪出発
- 13:30 串本到着（途中で昼食）
- 14:00 橋杭岩の見学（宝永地震の痕跡）
- 15:00 串本町の津波防災施設の見学
- 16:00 意見交換会（串本町役場総務課防災グループ）
「串本町の津波防災の現状と課題」
「建設部会&防災研究会として今後対応できること」
- 18:00 宿泊施設にチェックイン
- 18:30 交流会

【2日目】11月3日（日）

- 7:30 朝食
- 8:30 宿泊施設を出発
2011年台風12号災害の復旧状況の見学（勝浦町）
- 10:00 勝浦町出発（途中で昼食）
- 14:00 三重県大紀町の津波避難施設「錦タワー」の見学
- 15:00 出発
- 18:30 大阪到着、解散



■見学先情報

★橋杭岩

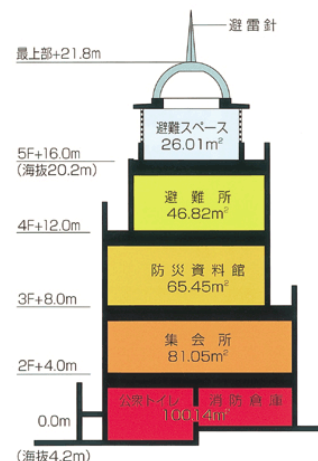
橋杭岩（2008年8月）橋杭岩（はしくいいわ）は、和歌山県東牟婁郡串本町にある奇岩群。同町の大字鬮野川（くじのかわ）小字橋杭の海岸から紀伊大島方面へ大小約40の岩が南西一列におよそ850メートルもの長きにわたって連続してそそり立っている。直線上に岩が立ち並ぶ姿が橋の杭のように見えることから橋杭岩と呼ばれている。また干潮時には岩の列中ほどに附属する弁天島まで歩いて渡ることができる。

★橋杭岩と宝永地震との関係

橋杭岩に転がっている岩の中には、岩のそそり立つところからかなり遠くにまで転がっているものもある。これらの岩は宝永地震で起こった大きな津波によってそこまで転がったのではないかという調査結果が出ている。その証左として、元々湿ったところを好む植物・生物が死滅し、化石になったものが表面上に残っており、それらを調査したところ、宝永地震の起こった1700年代であることが明らかになっている。また、橋杭岩に散らばっている岩が動くのには秒速4メートル以上の速い流れ（流速）が必要とされ、これもこの地域で頻繁に襲来する台風から起こる波や同じく震源域に近い東南海が震源の単独地震を想定して計算された流速ではなく、東海・東南海・南海地震の連動型であった宝永地震を想定して計算された流速と一致している。

★錦タワー

三重県度会郡大紀町錦にある防災塔。1944年（昭和19年）12月7日の東南海地震に伴って発生した津波を教訓に建設されたもので、1998年（平成10年）に完成した。タワーの完成後、錦地区に大きな津波が押し寄せたことはないが、台風などの際に役立っており、防波堤に比べて安く建設できることから、東日本大震災以降日本全国から視察が増加している。タワーは海拔高度4.2mのところにある鉄筋コンクリート構造の5階建の建築物で、高さは21.8mである。昭和東南海地震の波高6.5mを基準にし、2階以上は浸水しないという想定の下8.1mの2階部分に避難場所となる集会所を設置している。最大500人が施設内に避難することができる。タワーにはさまざまな工夫がなされている。津波の力や津波で流されてきた船舶が衝突する際の衝撃を分散させるよう、円柱形をとっている。また、階段を外周に設置することで流された人を見つけやすくしている。建設費は1億3800万円。防波堤を建設するとなれば最低でも数百億円は必要となる上、東日本大震災では効果の限界が露呈した。非常用の備えとして、500mL入りペットボトルの水100本、毛布50枚、救命胴衣、自家発電設備を用意する。



建設部会・防災研究会 合同見学会参加申込書

宿泊見学会「南海トラフ巨大地震に備えた津波防災を考えよう」に申込みします。

平成 25 年 年 月

お 名 前		男、女
ご 住 所		
電話番号（自宅）		
電話番号（携帯）		
メールアドレス		
所 属	建設部会会員	防災研究会会員 その他

【申込み先】

公益社団法人 日本技術士会近畿本部
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-9-15
(TEL)06-6444-3722、(FAX)06-6444-3740
(E-mail)pe@ipej-knk.jp